

□ 複合施設の設置及び運営に関する懇談会
第3回 児童育成施設分科会 議事録要旨

日 時	平成 21 年 12 月 24 日 (木) 12:30~15:00
場 所	【視察】福島市 子どもの夢を育む施設こむこむ館
出席者	〔委 員〕 阿久戸光晴分科会長、小林敦子副分科会長、 志村博司委員、竹内捷美委員、吉田詠子委員、斉藤邦子委員、 上田寛子委員、高田忠則委員、仲村 威委員、北川嘉昭委員、 高梨博和委員、友塚克美委員 〔オブザーバー参加〕 小泉児童青少年課長、 佐藤社会教育課長、飯田指導主事 〔事務局〕 飯田特命担当課長、谷井企画係主査、須田主事

1 [こむこむ館担当者からの説明]

岸波総務管理係長から説明及び施設内の案内をいただく。

2 [見学終了後、質疑応答] (分科会委員からの質問に対して、岸波総務管理係長が回答)

・コンセプトの原点は何か。

子どもの夢を育むことは一朝一夕にできることではない。子どもたちが夢をふくらませる手助けができればいい。豊かな出会い、感動や驚きの場となる、或いはきっかけを与える場になることを目指している。

・体験メニューは間口を広くとっているようだが。

まずは興味をもってもらい、そこから先は専門的なところで学んでもらう。きっかけをもってもらうことが目的であり、遊びの中から学ぶの糸口を見つけてもらう機会を提供している。

・現下の経済状況の中、コスト面（経費がかかる点）についての市の考え方は。

教育施策というのは、すぐに芽が出るものではない。時間をかけて進めていくものと考えている。

また、本施設は中心市街地活性化を目的とした施設である。年間に 30 万人を集めており、そのうち 35%が市外や県外からの来館者という状況は一定の効果を出している。施設周辺の駐車場や飲食店への経済効果は果たしている。

・事業展開の仕組みは。全体調整は誰が担っているのか。

市職員だけで調整していくことは難しい。専門的な知識が必要になるので、施設整備計画当初から関わっている事業者委託している部分もある。

- ・ドリームサポーターにおけるノウハウの継承はどのようにしているのか。
館において初任者研修、専門研修を行っている。サポーターによる自主研修も行われている。教育はしっかり行っている。
- ・ドリームサポータージュニアの活動内容は。
現在は、ドリームサポーターで活躍している人達の子どもが登録している状況。ワークショップの準備や後片づけの手伝いをしている。
- ・ドリームサポーターは有償か。
交通費、駐車場代（こむこむ館には駐車場がないため、近隣の民間駐車場を利用しなければならない、また福島市内はマイカー移動がほとんどである）、昼食代として、4 時間以上/日の活動に対して、2000 円を支給している。
- ・建築設計や展示の契約はどのようにされたのか。
展示は、トータルメディア研究所、建築設計はプロポーザルにより N T T ファシリティーズと地元業者の J V。NHK と一緒に発注した。
- ・わいわいホールの夜間貸出の状況は。
現在は夕方 6 時 30 分までである。夜間貸出し要望が、年間に 10 件位はあるが、市内には 500 人規模のホールが他にもあるので、そちらを紹介している。夜間貸出しに係る人件費等の費用対効果を考慮し、現在のところは夜間貸出しはしていない状況である。
- ・市立小学校 4 年生はこむこむ館学習が必須であるが、学校から施設までの移動手段はどうなっているか。
こむこむ館で送迎バスを用意している。公共機関（バス等）を利用した場合は、こむこむ館が所要交通費を負担している。
- ・館内カードの発行数は。
約 12000 枚ほど。子ども限定。たまに来館するような方は作らない。
- ・市の児童館事業との連携は。
市には 3 つの児童館があるが、今のところ、事業の実施に当たっての連携はない。
- ・こむこむ館でのワークショップがサークル活動やクラブ活動に発展することはないのか。
今のところない。